

授業概要

保育所では、0歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として、保育を行っている。幼稚園・保育所での保育は、乳幼児期に人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい子ども観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしいかかわりが必要となる。保育の歴史と共に、子ども理解や発達援助に必要な方法及び、保育者としての資質能力について講義し、保育者に求められる保育の基礎について講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション ・講義の概要説明/保育原理とは（現代の子どもの生活環境）
第 2 回	保育の理念と子ども ・保育をめぐる理念と子どもとのかかわり
第 3 回	保育思想の変遷（西洋） ・欧米における保育思想について、歴史や意義、思想
第 4 回	保育思想の変遷（日本） ・日本における保育思想について、歴史や意義、思想
第 5 回	保育士の専門性と役割 ・保育専門職のひとつである保育士の意義・役割・専門性
第 6 回	保育所の役割と保育の本質 ・児童福祉施設としての保育所の役割とその本質
第 7 回	保育と環境 ・保育の環境（物的・人的・自然・社会的・文化的）について理解する
第 8 回	子どもの発達過程と保育 ・乳児から幼児の発達過程と保育の原理・方法
第 9 回	保育と遊び ・保育における遊びの意義や役割
第 10 回	保育の計画、評価 ・保育における指導計画（全体的な計画）の意義と評価の重要性
第 11 回	家庭、地域との連携 ・保護者との連携、災害時等での地域との連携の重要性
第 12 回	多様な保育ニーズ ・障害、外国籍、貧困など様々な観点から、保育ニーズについて
第 13 回	日本における保育施策の現状と課題 ・子ども子育て支援新制度、子ども家庭庁の創設等
第 14 回	日本における保育制度 ・幼稚園・保育所の相違や設置基準等、日本の保育制度の現状と課題
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・保育・教育に関する思想や歴史から保育の意義を理解できる。
- ・保育の基本を理解し、保育目標や内容・方法を考察できる。
- ・保育の現状や課題について説明できる。

履修上の注意

- ・積極的に授業に参加すること。
- ・教科書・資料のプリントをファイルにまとめ、常に持参すること。

予習・復習

- ・予習：各回でのトピックについて教科書を中心に読み込むとともに、不明確な点については文献、インターネット等で確認する。
- ・復習：ノートやプリント等で振り返りをしつつ、不足分について関連文献を読み込み、資料収集を行い、成果の定着を図る。

評価方法

・授業への参加姿勢（出席を含む）（10%）課題レポートの提出（30%）、試験（60%）で評価を行い、総合評価 60 点以上を合格点とする。

テキスト

- ・教科書名：保育原理
著者名：汐見稔幸、無藤隆、大豆生田啓友編著
出版社名：ミネルヴァ書房
出版年（ISBN）：ISBN978-4-623-08443-3
 - ・教科書名：幼稚園教育要領・保育所保育指針・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷
著者名：民秋言 編著
出版社名：萌文書林
出版年（ISBN）：978-4-89347-254-0
- 参考文献：保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説書